

「コガネマサリ」に対する被覆尿素肥料の全量基肥施肥法

松野宏治・平木孝典

水稻における追肥の施肥労力削減を図るため、溶出パターンの異なる 2 種類の被覆尿素肥料と速効性窒素肥料の配合肥料を用いて、水稻「コガネマサリ」に対する全量基肥施肥法について検討した。

1. ポリオレフィン系樹脂被覆尿素肥料 A(シグモイド溶出型 100 日タイプ), B(直線溶出型 140 日タイプ)および速効性窒素肥料を窒素量で 4:4:2 ないし 4:3:3 で混合した被覆尿素入り肥料(慣行施肥窒素量の 20%減)による施肥法が, 1991~1994 年の 4 カ年を通して, 葉色の推移, 成熟期までの生育および収量において慣行施肥法とほぼ同様になり, 米の品質(外観, 玄米中窒素含量)にも差は認められなかった。

2. 上記施肥法による収穫期の水稲の窒素吸収量は, 慣行施肥法とほぼ同程度となり, 施肥窒素利用率は 4 カ年の平均で 74%で, 慣行施肥法に比べて約 15 ポイント増加した。

キーワード: コガネマサリ, 水稻, 施肥窒素利用率, 施肥法, 被覆尿素肥料